

令和元年度第1回総合教育会議 次第

日時：令和元年8月16日(金)
午後4時00分～
場所：東庁舎2階大会議室

議 題

- 1 公民連携による小中学校の水泳授業の可能性について 資料1

- 2 情報化社会への対応に向けた教育環境の整備について
 - (1) 次世代型教育ネットワークシステムの構築について 資料2

 - (2) プログラミング学習に必要な機器の配備について 資料3

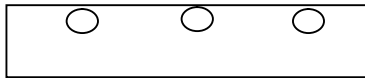
- 3 その他

令和元年度第1回総合教育会議 配席図

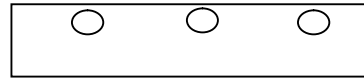


出入口

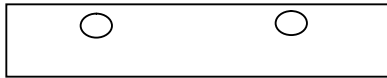
事務局



事務局



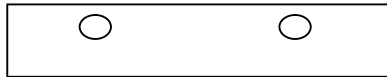
教育委員会 教育委員会
学校指導課長 総務課長



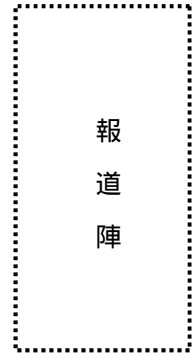
企画課長 財政課長



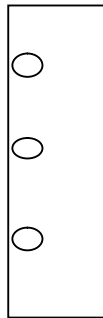
教育監 教育部長



総合政策部長 財務部長



福應 委員



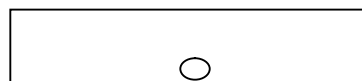
岡田 委員

安藤 教育長

小出 委員



上原 委員



内田 市長

出入口

公民連携による小中学校の水泳授業の可能性について

1. 背景

学校のプール施設は1年のうちで利用期間が短く、その一方で毎年の維持管理費は多額である。その上、多くのプールが改修又は改築時期を迎えており、現在のプールを維持するためには、今後多額の費用が必要となる。

また、子供の安全確保及び施設の管理等における教員の負担が大きいことから、民間スイミングスクールの施設を活用するモデル事業を検討する。

2. モデル事業の概要

(1) 以下の条件に該当する3校をモデル校とする。

- ・部活動、学校プール開放がないこと
- ・改修又は改築工事の時期が重なっていること
- ・民間スイミングスクール施設までの移動時間が20分程度以内であること

(2) 授業2コマ分を1回とし、バスで民間スイミングスクールへ移動し、教員の指導とインストラクターの指導補助による水泳指導を受ける。(水泳授業は、年10時間程度の実施が適当であることから、年5回実施)

3. 期待される効果と影響

(1) 効果(メリット)

- ・教員とインストラクターの指導による児童生徒の安全確保と泳力向上
- ・教員の負担軽減(施設の管理、プール監視等)
- ・シーズンを問わず年間を通して利用可能(弾力的な年間指導計画等)
- ・プール跡地の有効活用が可能

(2) 影響(デメリット)

- ・移動時間の確保
- ・額田地区等、民間施設が近隣にない場合への対応

4. 今後の展開

《令和2年度》

- ・モデル校での実施と実施結果の検証(アンケート調査、課題整理等)
- ・今後の方針検討(全体計画策定、次年度予算措置検討等)

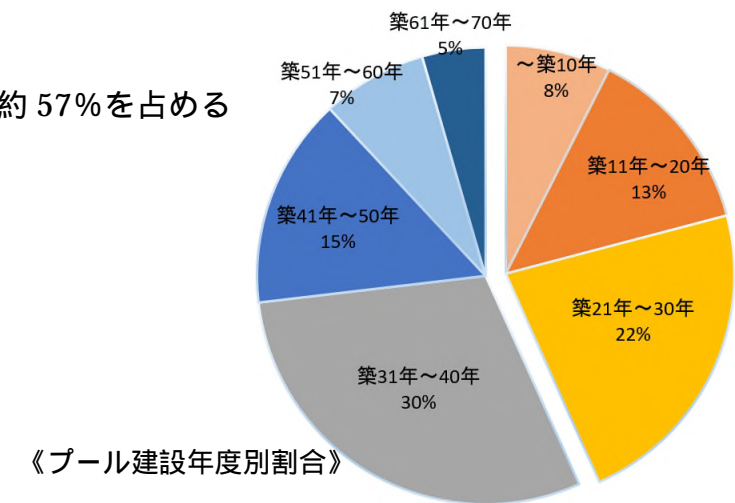
《令和3年度以降》

- ・実施校の拡大(数校)
- ・プールの廃止及び跡地利用の検討

5. その他

(1) プールの経過年数

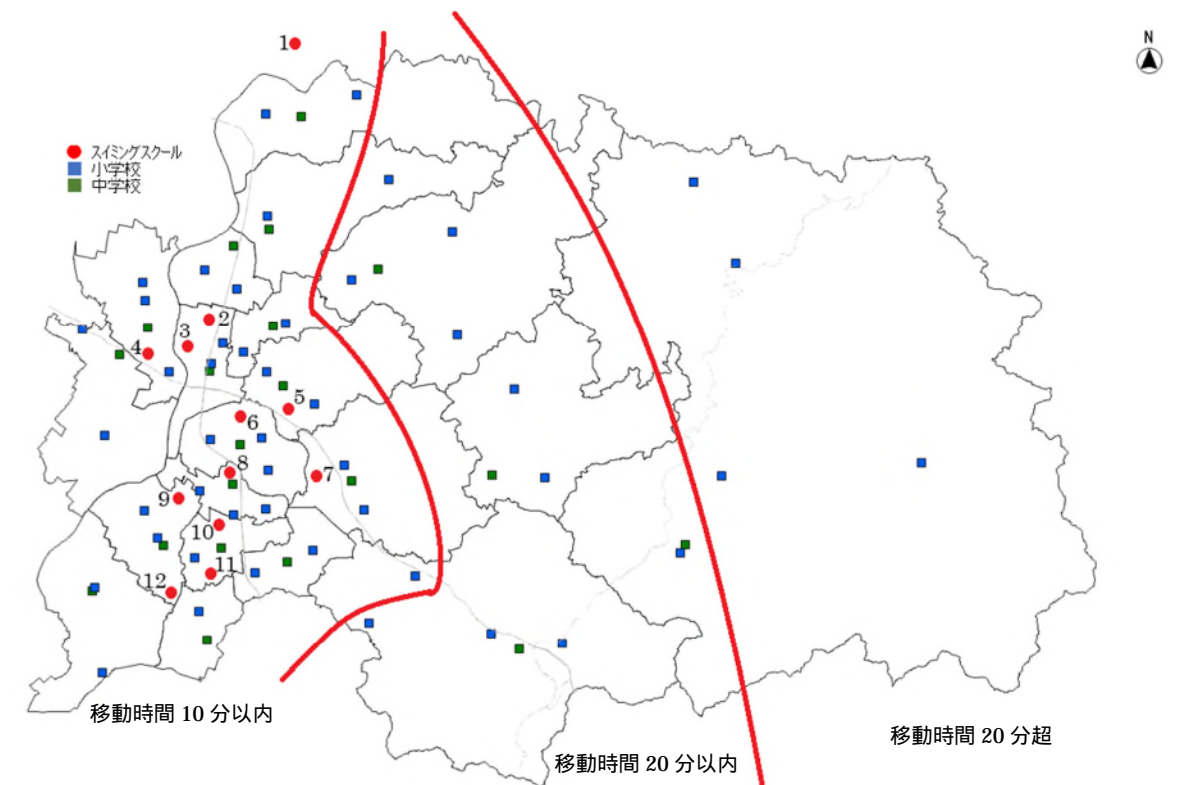
建設後30年を超えるプールが約57%を占める



(2) 小中学校及びのスイミングクラブの位置図。

移動時間：10分以内(47校) 20分以内(16校) 20分超(4校)

Google Mapで自動車での移動時間



- | | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|--------------|
| 1 フォレストヒルズ | 2 コナミスポーツクラブ | 3 竜城スイミング本校 | 4 サンスポーツクラブ |
| 5 岡崎げんき館 | 6 名鉄セントラルフィットネス | 7 ロイヤルキッズスクール | 8 イオンスポーツクラブ |
| 9 ロイヤルスポーツクラブ 2 | 10 サンスポーツクラブ 竜城 | 11 ホリデイスポーツクラブ | 12 竜城スイミング南校 |

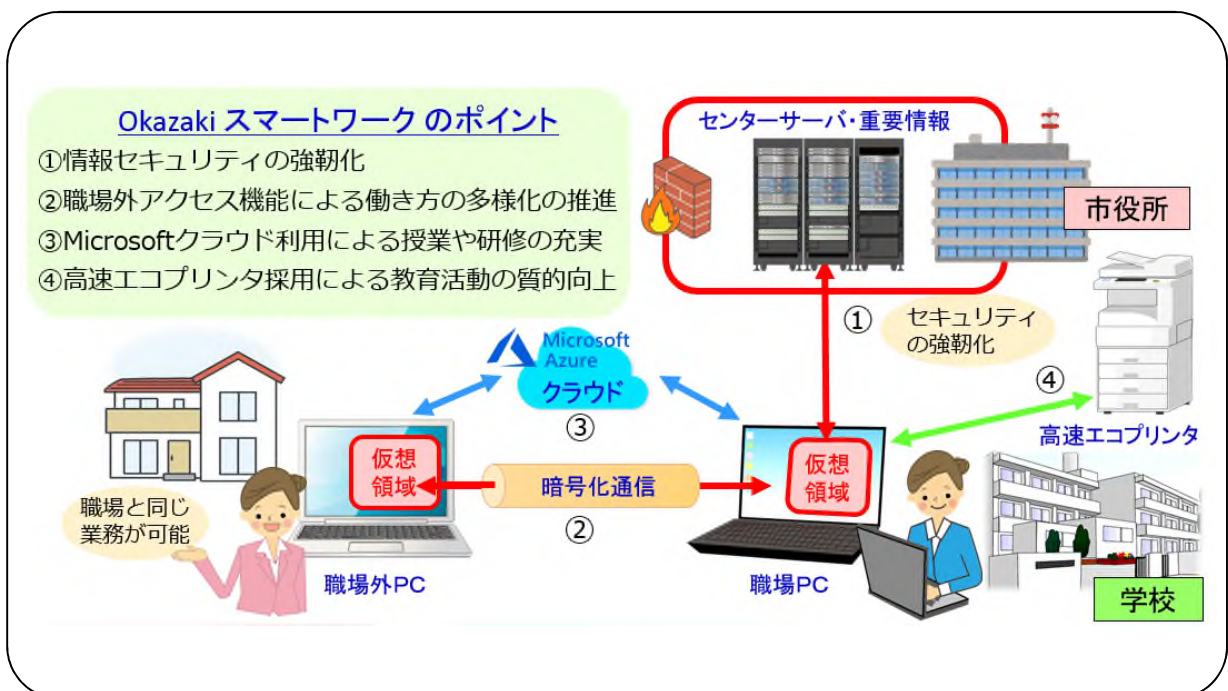
情報化社会への対応に向けた教育環境の整備について

1 . Okazaki スマートワークの構築（次世代型教育ネットワークシステム）

来年度予定しているセンターサーバ更新に伴い、全国で最先端の教育ネットワークシステムを整備し、情報セキュリティを大幅に向上させるとともに、教職員の働き方の多様化を強力に推進する。また、既存の Microsoft ライセンスを有効活用して最新のクラウドサービスを採用し、教育活動の更なる充実を図る。

次世代型教育ネットワークシステムの大きな柱は以下の4点である。

- (1) 情報セキュリティの強靱化
 - ・ 仮想化技術を用いたネットワーク分離による重要情報の保護
 - ・ 標的型攻撃や不正アクセスをブロックする監視システムの導入
- (2) 職場外アクセス機能による働き方の多様化の推進
 - ・ 職場外でも職員室と同じ P C 環境を安全に利用可能（リモート利用）
 - ・ 個人所有 U S B メモリの全廃による情報漏洩リスクの低減
- (3) Microsoft クラウド利用による授業や研修の充実
 - ・ 実践事例やビデオ教材等の教育コンテンツの共有
 - ・ ビデオチャットによる遠隔会議や研修ビデオ配信による e ラーニング
- (4) 高速エコプリンタ採用による教育活動の質的向上
 - ・ 大幅なコストダウンと時間短縮による職場環境の改善
 - ・ カラープリントの有効利用による学習環境の向上



2. プログラミング学習に必要な機器の配備

児童がプログラミングの楽しさを味わい、プログラミング的思考を深めるためには、小型ロボット等の物理的な機器を用いたプログラミングの体験は大変有効である。パソコン画面上だけのプログラミングとは違った試行錯誤を通じて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業展開が可能となり、子供たちの問題発見・解決の能力を養うことができる。

今年度よりスタートした「岡崎市プログラミング学習」においても、全24単元のうち、5・6年生の理科の2単元で機器を用いた授業を行う。今年度は、わずかな数量しかいないため、期間限定の貸出により対応するが、学校としては授業づくりが困難な状況と言える。そのため、全市的な整備を行い、各校に配備する必要がある。できる限り汎用性があり、児童や教員にとって扱いやすく、興味関心を高め、よりよい授業づくりに資する機器を選定したいと考えている。

具体的には、以下の3点が全て行える汎用的な機器を選定し、「岡崎市プログラミング学習」に位置付けて、全市的に授業を行えるようにしたい。

- 自走式小型カーによる走行
- 各種センサー機能での計測
- LED照明による表示

また、上記とは別に、各学校が独自に機器を選定して購入できるように、学校配当予算での対応も考えている。

例 アーテック社 アーテックロボ 2.0



ライントレースカー



明るさ・温度・磁力センサー



LED信号機

例 スフィロ社 ボルト



光と回転で表現できる球体ロボ

例 メイクブロック社 Mロボット



各種センサー付き自走式ロボ